

併シナカラ注意スヘキハ航海ノ關係一變シ同一ノ船舶ガ諸港ヨリ荷物ヲ積込
ミ又往々諸國ノ間ヲ航海スルニ至ルルコト之ナリ

第二 文明諸國ノ海上法ヲ統一セントスル運動極メテ盛ナリ又大ニ之ヲ補助セ
ザルハカラム

一、「ヨーク・アントウセルン」規則 (York und Antwerp Rules) (譯者曰、此規則ハ共同海
損ニ關スルモノニシテ一八七七年國際法學會ニ於テ議決セラレ一八九〇年
修正セラレタリ)

Report of the fifth annual conference of the Association (1877) p. 80 ff.

Lewis in Goldschmidt's Z. XXIV, N. F. IX, S. 491-521.

Voigt, Die neuen Unternehmungen zum Zweck der Ausgleichung der Verschiedenheiten der in den Seestädten geltenden Havarie-grosse- und Seefracht-Rechte (1882)

E. van Peboggh, Des règles d'York et d'Anvers in Journal de dr. i. XIII, p. 121-131.

右ノ外「ヨーク・アントウセルン」ノ十二則ヲ掲載セル書籍左ノ如シ

Lewis, a. a. O. S. 501.

Heck, Das Recht der grossen Havarei (1889) S. 680-684.

Gareis und Fuchsberger, Deutsches Handelsgesetzbuch S. 1093/4.

Report of the fourteenth Conference of the Association p. 46 ff. and 279-285. ニ於ケル改正「ヨーク・アン

トウセルン」規則(第一條乃至第一八條)參照

二、國際法協會ハ伊國ツリンニ於テ左ノ決議ヲ爲セリ (Annuaire VI. p. 91)

就中統一ヲ希望スヘキ事項ハ爲替手形其他ノ流通證券運送契約及海上
法ノ重ナル部分ナリ

三、同協會ハ又海上保險ニ關スル統一法ヲ決議セリ

四、同協會ハ又萬國海上捕拿裁判所構成ノ按ヲ作レリ (Annuaire II. p. 153 ff. p. 113 ff.)

(130 參照)

本會ハ捕拿ニ關スル裁判所及司法制度ノ現職ニ缺點アルコトヲ宣言シ且
新設ノ國際制度ニ依リ之ヲ矯正スルヲ急務ナリト思量ス而シテ其矯正方
法トシテ本會ハ左ノ事項ヲ必要ナリト信ス

一、條約ヲ以テ海上捕拿ニ關スル原則ヲ定ムルコト

二、今尙ホ交戰國ノ判事ノミヲ以テ組織スル裁判所ニ代フルニ國際裁
判所ヲ以テシ裁判ノ公平ニ關シ中立國又ハ敵國ノ利害關係人ニ比較
的大ナル擔保ヲ與フルコト

三、捕拿ニ關シ採用スヘキ普通ノ訴訟手續ニ付キ條約ヲ爲スコト
本會ハ今日以後ウニストレーキノ草按ニ基ク初審又ハ上訴審ノ混合裁判
所ヲ以テ一進歩ト思量スル旨ヲ宣言セサルヘカラスト信ス

五、國際海上委員會 (Comité maritime international) ハ文明諸國ノ海上法ヲ統一セ
ンコトヲカム (Journal de dr. i. XXVI. p. 202, XXVIII. p. 65 及 Boyens, in der Z. für H.
R. N. F. 33. S. 172 N. F. 36. S. 128) 而シテ注意スヘキハ英國モ亦此運動ニ加ハ
ルコト之ナリ

序ニ一言スヘキハ瑞西商工組合ノ理事ハ國際鐵道條約ノ締結アリタルヲ機
トシ鐵道中央事務局ハ列國會議ヲ開キテ議決スルニ適スル如ク内水法及海
上法ノ全部ヲ準備セラレタキ旨ヲ提議セリ同組合ハ瑞西ハ此種ノ提議ヲ爲
スニ充分ナル利害關係ヲ有セストノ意見ヲ前以テ排斥シテ曰ハク「瑞西ハ直
接ノ利害關係ヲ有セサルカ故ニ發議者タルノ好地位ニアリ」ト (Meili, Der inter-
nationale Geist in der Jurisprudenz 1897. S. 11.) 併シナカラ余ノ知ルトモロヲ以テ
スレハ在ヘルン鐵道中央事務局ハ今日ニ至ルマテ此提議ニ應セス

第三 海上法ニ關スル抵觸事件ヲ總テ法廷地位ニ服從セシムルハ不可ナリ

一、海上法ニ於テモ亦特ニ法廷地位偏重セラル之レ海上法ハ各國ニ亘リ同一
ナル法律ニシテ正當ノ抵觸規定ヲ定ムル實益ナシトノ舊思想ヨリ來レルモ
ノ、如シ併シナカラ法廷地法ノ偏重ニ對シテハ嚴肅ナル反對アリ一八八五
年アントウエルベン列國會議ハ滿場一致ヲ以テ左ノ如ク決議セリ

海上法ノ抵觸ノ場合ニ於テハ一原則ヲ適用スルコト能ハスシテ各場合ニ
依リ區別ヲ爲サルヘカラス

二、併シナカラワグナー (Wagner, H. B. des S. R. I. S. 128) ハ原則トシテハ法廷地法
ヲ適用スヘク又同法ノ適用ニ付テハ一種ノ推測存ストノ見解ヲ採ル此意見
ニ對シテハ本編第一部第一章第一二節ヲ參照スヘシ

三、獨逸帝國裁判所カ英船二艘ノ露領海ニ於ケル衝突事件ヲ獨法ニ依リテ裁
判セシコト亦興味アリ (R. G. Civils. XXIX. S. 90)

四、實際的理由ハ未タ以テ法廷地法ノ適用ヲ可トスルニ足ラス
第四 海上法ニ關シテハ明示ノ抵觸規定ナシ

併シテカラ之ニ付テハ例ヘハ獨逸商法第四八三條第五二二條第九〇一條乃至第九〇五條(海上法ニ於ケル時効規定)及第五一五條(船長カ外國ニ於テ其地ノ法規殊ニ警察法、租税法及關税法ヲ遵守セザリシトキハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス)ヲ見ルヘシ

第二節 海上法ニ於ケル本國法(船籍國法)

V. Post, H. S. 189-195.

第一 船籍國法ハ以テ之ヲ主タル準據法ト爲スコトヲ得

一、所有者カ一定ノ方式ヲ履ムトキハ船舶ハ國籍ヲ取得シ其國ノ旗ヲ掲クルコトヲ得而シテ船舶カ國籍ヲ取得スル條件ハ通常左ノ如シ

(イ) 一定ノ登記簿ニ登録スルコト

(ロ) 船舶所有權ノ全部又ハ一部カ當該國ノ人民又ハ住民ニ屬スルコト

現ニ獨逸國(日本其他ノ國)ニ於テハ不動産登記簿ニ類似ノ船舶登記簿ヲ設ケ之ニ左ノ事項ヲ登録ス(一八七三年、一八八八年、一八八五年、及一八九八年ノ法

律又 *Loewe in der Z. für H. R. N. F. 34 S. 335; 35 S. 217* 參照)又日本ニ付テハ明治三

二年ノ勅令(船舶登記規則參照)

船舶カ帝國旗ヲ掲クル權利ヲ得ルニ必要ナル一切ノ事項

船舶ト其所有關係トノ符合ヲ確定スルニ必要ナル一切ノ事項

船籍港

以上掲ケタル事項ノ變更

二、(ニ)(ハ)(ロ)(イ) 船籍港ニ於テ航海ニ支障ナシト宣言セラレタル船舶ハ外國ニ於テモ亦航海ニ支障ナシト認めサルヘカラス(但特別ノ規定ニ基キ碇泊港ノ警察規則ヲ適用スヘキトキハ此限ニ在ラス)之ヲ論據トシテ船舶ハ一種ノ國籍ヲ有スト云フコトヲ得又船舶ハ游泳スル建物ナリトモ云フ、實際上船舶ハ往々不動産ノ規則ニ從フ故ニゴールドシュミット (*Goldschmidt, Handbuch des Handelsrechts 2. Aufl. H. S. 4*)¹⁾「船舶ハ恰カモ商業ノ不動産ナリト云ヘリ」

三、國際法協會ハ海上法ニ關スル法律ノ抵觸ヲ律スル國際規則草案按ニ於テ左ノ原則ヲ定メタリ (*Annuaire VIII, p. 124, 125*)

左ノ問題ハ船籍國ノ法律ニ依リテ之ヲ決ス

- 一、所有權ノ移轉ニ付キ履ムヘキ公示ノ方式如何
- 二、船舶所有者ノ債權者中如何ナル者ハ船舶カ讓渡サレタル場合ニ於テ追及權ヲ有シ又如何ナル者ハ之ヲ有セサルヤ
- 三、船舶ヲ抵當ニ書入ル、コトヲ得ルヤ否ヤ
- 四、海上抵當ノ公示ニ付キ履ムヘキ方式如何
- 五、如何ナル債權ハ海上先取特權ニ依リテ擔保セラレハヤ
- 六、船舶ノ上ニ存スル先取特權ノ順位如何
- 七、船長カ航海中冒險貸借ヲ爲スニ當リ履ムヘキ方式如何
- 八、船長及海員ノ行爲ニ對スル船舶所有者ノ責任ノ程度如何殊ニ船舶所有者ハ船舶及運送貨ヲ委付シテ其責任ヲ免ル、コトヲ得ルヤ
- 九、共同海損トシテ利害關係人ニ分擔セシムルコトヲ得ル海損ハ如何ナル性質ヲ有スルコトヲ要スルヤ
- 一〇、共同海損ノ場合ニ於テ損害ヲ負擔スヘキ財團ハ如何ニ之ヲ組成

スヘキヤ殊ニ船舶所有者ノ負擔ニ關シテ如何ニ之ヲ組成スヘキヤ

右ニ付テハ一八八八年ブルユクセル列國會議ノ條約草按ヲ參照スヘシ

四、アントウエルベン列國會議カ左ノ決議ヲ爲シタルハ誠ニ其當ヲ得タリ

船舶及航海ニ關スル爭議ニシテ船舶共有者相互ノ間、船舶所有者ト船長トノ間并ニ船舶所有者又ハ船長ト海員トノ間ニ生スルモノハ船籍國ノ法律ニ依リテ之ヲ決ス

第二

專ラ重ヲ船籍國法ニ置クハ不可ナリ

一、殊ニ抵當權ニ付キテモ亦一ニ船籍國法ニ依ル而シテ此ノ如キハ佛國カ抵當權ニ關シテ探レル主義(外國ニ於テ其地ノ法律ニ從ヒテ適法ニ設定シタル抵當權ヲ佛國ニ於テ無効トスル主義)ニ對スル一種ノ法律的反動ナリ (Journal de dr. i. l. p. 31; IX. p. 246 參照)

二、ハール (v. Bar, II. S. 198, 199) モ亦國際法協會ノ決議ニ反對ス

三、船籍國法ハ實際上左ノ諸點ヲ決ス

(イ) 各共有者ノ權利 船舶ハ諸國ノ人民ニ屬スルコトアルカ故ニ此ノ如ク

ルヲ以テ益々正當トス

(ロ) 國旗ヲ變更スル權利 此場合ニ於テハ事各人ノ所有權ノ内容ノ變更ニ關ス

四、又船長及海員ノ船舶所有者ニ對スル權利義務ニ關シ船籍國法ヲ適用スルハ正當ナリ(v. Bar, II, S. 226)

五、アントウエルペン列國會議ハ專ラ船籍國法ニ依リテ船舶所有者ノ責任ヲ決セントシタル點ニ於テ適度ヲ踰越セリ何トナレハ船長及海員ノ不法行為又ハ準不法行為他船ヲ毀損セシ場合ノ如キニ付テハ行為地法ヲ適用スヘキモノト云ハサルヘカラサレハナリ

第三節 船舶抵當權ノ設定

v. Bar, II, S. 105 F

第一 船舶抵當權ノ設定ハ其船舶ヲ以テ他國間ノ航海ヲ營ムトキト雖モ船籍國法ニ依ルヲ原則トセサルヘカラス船舶ノ書入ニ關シ船籍國法ト船舶碇泊地法

トカ其方式ヲ異ニスルト否トハ原則トシテ何等ノ關係ナシ但公ノ登記簿ニ登錄スヘキモノトセサルヘカラス

一、外國法ニシテ正道ヲ逸セサラント欲セハ既得權ヲ尊重セサルヘカラス船舶カ外國ノ領海ニ到ルトキ亦同シ此種ノ既得權ノ否認ハ就中再ヒ本國ニ復航スル目的ヲ以テ外國ニ至レル船舶ニ對シテハ之ヲ許スコト能ハス海船及大河船ハ一定ノ國ニ本據ヲ有スル營業ノ用ヲ爲スモノニシテ他ニ利用方法ナキトキハ性質上其國ニ復航スヘキモノナリ故ニ船舶ハ其國ニ於テ或意義ニ於ケル住所ヲ有ス(R. G. Civils. 45 S. 278 又此判決ハ Z. für internat. Priv- und Str. R. X. S. 472 ff. ニ轉載セラル)之ニ依リテ見レハ內國ニ於ケル抵當書入ノ方法異ナルヲ理由トシ外國ニ於テ發生シタル船舶抵當權ヲ害スルヲ得ス故ニ獨逸ニ於テハ和蘭ニ於テ其國ノ法律ニ從ヒテ設定シタル船舶抵當權ヲ認メタリ(但其船舶ハ獨逸國ニ於テ差押ヘラレ且競賣セラレタリ)

二、併シナカラ公ノ登記簿ニ登錄スヘキモノトセサルヘカラス和蘭ノ法律ハ登録ノ外書入ノ焼印ヲ押スヘキモノトセリ獨逸法ニ關シテハ民法第一二六

○條乃至第一二七一條ヲ見ルヘシ(日商六八六條乃至六八八條、日民三六九條乃至三九八條參照)

第二 然レトモ前掲ノ原則ニ對シテハ幾多ノ例外ヲ認メサルヘカラス、

一、滯在港ノ法律ニ依リテ適法ト宣言セラレタル船舶ノ抵當書入ニシテ左ノ條件ヲ滿タシタルトキハ有效ナリ

(イ) 船舶國籍證書ニ其旨ヲ記入スルコト
(ロ) 一定ノ期間内ニ船籍國法ノ必要トスル方式ヲ履ムコト

船舶ハ擬制ニ依リテ不動産タルニ止マリ實ハ動産タルコトヲ忘ルヘカラス、故ニ若シ抵當權ニ關シ專ラ船籍國法ヲ適用センカ世界交通ハ之カ爲メ大危險ニ頻シ碇泊國殊ニ普通債權者ハ理由ナクシテ大ニ其利益ヲ害セラルヘシ

二、碇泊地法ノ全ク知ラサル方法例ヘハ口頭又ハ書面ニ依リ他ノ方式ヲ履マサル如キニ依リ抵當書入ヲ爲シタルトキハ其書入ハ之ヲ有效ト看做スコトヲ得ス (Seuffert, Archiv XXXI. No. 195. 及 R. G. Civils. 45 S. 279.)

三、船籍國法カ船籍港外ニ於テ一定ノ方式ヲ履マスシテ抵當書入ヲ爲スコト

ヲ概括的ニ禁シタルトキハ前ノ場合ト同一ニ論セサルヘカラス

第四節 海上物品運送契約及海損

v. Bar II. S. 219.

Hook, Das Recht der Grossen

第一 海上物品運送契約ニ關スル問題ハ國際債權法上ノ問題ナリ

此場合ニ於テハ取引用語及文體ノ使用并ニ書式ノ署名カ大關係ヲ有スルコトアリ而シテ原則トシテハ物品運送契約ヲ締結シタル會社又ハ商店ノ營業所々在地法ニ依ラサルヘカラス、人往々到達地又ハ履行地ノ法律ニ依ルヘキモノトスト雖モ此見解ハ往々後日電信ニ依リ到達地ヲ定ムルノ一事ヲ以テ見ルモ其當ヲ得タルモノニアラス、宜哉、パール (v. Bar II. S. 219) カ之ヲ非難セシヤ

第二 海損ニ關スル規定ハ海上物品運送法ノ一部ナリ

此場合ニ於テモ亦往々到達地法重ンセラル、此事タルヤ中世ニ於テハ到達地法ノ支配ヲ受クル支店ニ宛テ、荷物ヲ送付シタル事實ト密接ノ關係ヲ有シ其後共同海損技師 (dispachent) ノ法律ハ此解決ヲ援ケタリ、共合海損技師トハ海損分

配ノ計算ヲ託セラル、者ヲ云フ又之ト異ナリテ船籍國法ニ依ルヘント唱フル者アリ殊ニリオンカーンノ如キ之ナリ又アントウエルペン列國會議ハ海損ハ荷却ヲ爲ス港ノ法律ニ依ルト決議セリ此決議ニ依レハ現ニ荷却ヲ爲ス港ノ法律ニ依ルモノニシテ其港ハ必ラスシモ到達港タルヲ要セス併シナカラ海損ヲ絕對ニ一法律ニ服從セシメントスルハ既ニ根本ニ於テ誤マレリ且少ナクトモ船籍國法其他ノ法律ニ依ルヘキ理由ナキトキニ限り彼ノ原則ヲ適用スル旨ヲ定ムヘカリシナリ

第三 船長ノ地位ハ原則トシテ船舶所有者ノ本國法ニ服從ス

アントウエルペン列國會議ハ絕對ニ船舶所有者ノ本國法ニ依ルヘキモノトシ左ノ如ク云ヘリ

船長カ船舶ノ需要ニ應スル爲メ之ヲ賣却シ若クハ書入レ又ハ冒險貸借ヲ爲ス權限ハ船籍國法ニ依リテ之ヲ定ム但其行爲ノ方式ニ關シテハ船長ハ船籍國法又ハ行爲地法ニ依ルコトヲ得

第三者ハ國籍ニ依リ船籍國法ニ服從スヘキ指圖ヲ受クルモノナリト云フ事實

ハ以テ右ノ解決ノ理由ト爲スコトヲ得

船長ノ地位ハ原則トシテ船籍國法ニ依リテ之ヲ定ムト雖モ第三者カ知リ又ハ知リ得ヘカリシ代理權ノ制限ヲ度外視スヘカラサル場合ハ例外タリ

第五節 海上衝突

v. Bar, II, S. 208 ff.

Buzzati, L'urto di navi in mare (Padua 1889).

R. Pien, Der Zusammenstoß von Schiffen aus den Gesichtspunkten der Schiffsbewegung, des Strassenrechts und der Haftpflicht aus Schiffskollisionen nach Gesetzgebungen des Erbteils. Eine nautisch-juristische Studie (1896) vöselst S. 2 weitere literatur.

De Raeppe, De la Compétence à l'égard des étrangers dans les affaires maritimes et de la loi applicable à l'abordage in Revue de dr. i. 2. Série III, p. 507.

第一 海港又ハ領海ニ於ケル船舶ノ衝突ニ關シ加害地法ヲ適用スルニ付テハ何人モ異議ヲ挾マス何トナレハ此場合ニ於テハ不法行爲又ハ準不法行爲存スレハナリ

一、領海トハ沿岸國カ海岸砲臺ニ依リ海岸ヨリ支配シ得ル公海ノ部分ヲ謂フ

其距離ハ多クハ退潮ノ最低水ヨリ三海里ト定メラル、國際法協會ハ之ヲ六海里ニ延長センコトヲ提議セリト雖モ之ニ基キテ開キタル外交談判ハ今尙ホ何等ノ實效ヲ生セス

一、一八八五年ノアントウエルベン列國會議亦前掲ノ原則ヲ宣言 (Actes p. 145 Question 60) シテ曰ハク「港河其他ノ内水ニ於ケル船舶ノ衝突ハ衝突地ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム」ト

爰ニ注意スヘキハ或國ノ法律ハ衝突船ノ一ニ過失アリト推定スルコト之ナリ例ヘハ碇泊中ノ船舶ト航行中ノ船舶又ハ帆船ト汽船トカ衝突シタル場合ノ如シ此種ノ規定ハ實體法ノ一部ト見做サルヘカラス

第二、公海ニ於ケル船舶ノ衝突ハ不法行爲ノ常則ヲ以テ律スルコト能ハス何トナレハ公海ニハ一定ノ國權存セザレハナリ

一、法廷地法ヲ適用スルハ勿論專斷タルヲ免レス然レトモ往々此法律ヲ適用スヘキモノト見做サル殊ニ北米合衆國ノ判例ニ於テ然リトス (Dicey p. 670)

二、リオンカーン (Journal IX, p. 600) ハ各國共通法ヲ以テ準據法ト看做サント欲

シ且之ヨリ推論シテ損害賠償ノ責任ハ過失ニ因リテノミ生スト論結ス

三、兩船ノ本國法ヲ折衷スルヲ要ス即チ原告ハ被告ノ本國法ノ認ムル損害賠償ノミヲ請求スルコトヲ得且其額ハ原告ノ本國法カ同一ノ場合ニ於テ被告ニ與フル額ヨリ大ナルコトヲ得スト云フ者アリ一八八五年ノアントウエルベン列國會議ハ此趣旨ヲ宣言セリ (Actes p. 451 Question 60)

同一國ニ屬スル二船ノ公海ニ於ケル衝突ハ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム若シ二船カ船籍國ヲ異ニスルトキハ各船ハ其船籍國法ノ範圍ニ於テ責任ヲ負ヒ又其船籍國法ノ與フルヨリモ多クヲ受クルコトヲ得ス

國際法協會亦此規則ニ賛成セリ併シナカラ此準據法ヲ發見スルハ往々容易ナラス例ヘハ夜間又ハ降霧中ニ衝突シ加害船カ逃走シタル場合ノ如シト云フ者アリ此困難ハ請求ノ通知ヲ爲シ又ハ訴ヲ提起スルニ付テモ同シク感スルトコロニシテ之レカ爲メ出路ヲ開キ期間及手續并ニ起訴ニ關シテハ加害船被害船又ハ衝突後始メテ入港シタル港ノ法律ヲ遵守スルヲ以テ足ルト云フニ至レリ又一步ヲ進メ場合ニ依リテハ國旗ヲ定メ從ツテ準據法ヲ定ムル

コト困難ナリト云フ者アリ之レ實ニ法學者ヲシテ請求ノ通知ヲ爲ス期間ハ各場合ニ付キ自然ノ正義ニ從ヒテ定ムヘキ旨ヲ提議セシムルニ至リタル所以ナリ (Journal de dr. i. IX, p. 604) 併シナカラ此見解ハ甚タ漠タルヲ免レス
アントウエルペン列國會議ハ請求ノ通知及訴ニ關スル期間及方式ニ付キ左ノ規則ヲ定メタリ (Actes p. 146)

船舶カ公海ニ於テ衝突シタルトキハ船長ハ船籍國ノ法律衝突船ノ法律又ハ衝突後初メテ入港シタル港ノ法律ノ定ムル方式及期間ニ於テ請求ノ通知ヲ爲シ之ニ依リテ其權利ヲ留保ス

第三 救援及救助ヨリ生スル請求權ハ各場合ニ於テ諸種ノ法律ニ服從ス

一、領海ニ於テ救助ヲ爲シタルトキハ行爲地法ヲ適用ス何トナレハ爰ニ問題トナレルハ準契約上ノ請求權ニシテ行爲地法ヲ適用スルコト適當ナレハナリ本編一部五章三節三款參照

二、公海ニ於テ救助ヲ爲シタルトキハ前ノ場合ト同一ニ論スルコト能ハス故ニ此場合ニ於テハ救助者ノ本國法即チ救助船ノ船籍國法ニ依ルヘキモノナ

リト云フ者アリ、アントウエルペン列國會議亦同一ノ決定ヲ爲シテ曰ハク「公海ニ於ケル援助ニ對シテハ援助船ノ法律ニ從ヒテ報酬ヲ與フト又急迫ノ危險ニ瀕スル船舶ハ命ヲ救護船ニ仰カサルヲ得ス故ニ或意義ニ於テ後者ノ一部分ナリト云ヒ以テ右ノ見解ヲ庇護スルコトヲ得 (V. Bar, II, S. 216)

法 船舶ノ衝突ニ關スル法規ハ一様ナラス

一、羅馬法ニ於テ「レツキス、アウキリヤ」(Lex Aquilia)ノ原則ヲ適用セリ即チ衝突カ過失ニ因リテ生シタルトキハ損害賠償ノ義務發生シ然ラサルトキハ不可抗力ト看做サレタリ

二、中世ニ於テハ諸種ノ見解行ハレタリ

(イ) ハルツェロナ「コンソラートアルマン」(Consolato del mare)ノ羅馬法ヲ採用セリ
(ロ) 大洋、北海及東海ニ關スル歐洲ノ法律「オレロン」ノ海上法ハ無過失衝突ヨリ生シタル損害ハ船舶ト其積荷トニ平等ニ分配スヘキモノト定メ且衝突原因不明ナル場合ニモ此規則ヲ適用セリ

三、現今ノ法制ハ之ヲ分ツテ左ノ三法系ト爲スヨトナ得 (H. Rohm Uebering, Eunde d'histoi du droit et de droit Comparé, Brüssel 1899)

(イ) 羅馬法系(西班牙、伯刺西爾、墨西哥、獨逸、伊大利、日本)獨商七三四條、七三五條殊
五條二項參照

(ロ) 大洋法系 此法系ハ尙ホ幾分カ損害分配主義ヲ保存ス、英佛ハ之ニ屬ス、若シ双方ニ過失アルトキハ英國ニ於テハ平等ニ佛國ニ於テハ過失ノ輕重ニ從ヒテ損害ヲ分配ス

航海規則又ハ國際上定マリタル法規カ遵守セラレシヤ否ヤハ各場合ニ於テ之ヲ檢査セサルヘカラス (Endemann, Handbuch des deutschen Handels-See-und Wechselrechts IV. S. 287-290 參照)

衝突ノ原因不明ナルトキハ今日ト雖尙ホ往々此規則適用セララル、過失アルモ其過失カ船員ノ過失ニアラスシテ例ヘハ強制水先人(船舶所有者ハ強制水先人ノ過失ニ付キ責ニ任セス)ノ過失ナリシトキ亦同シ

(ハ) 中世ハ見解ヲ探レル法系(和蘭、露西亞) 獨逸商法ハ船舶ノ衝突ヨリ生スル損害ニ付キ左ノ規定ヲ設ケ

第七三四條 二船ノ衝突ニ因リ一方又ハ雙方ノ船舶若クハ積荷又ハ船舶及積荷カ損害ヲ受ケ又ハ全ク滅失シタル場合ニ於テ衝突カ一船ノ船員ノ過失ニ

基キタルトキハ其船舶ノ所有者ハ第四八五條及第四八六條ノ規定ニ從ヒ衝突ニ依リ他船及其積荷ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

雙方ノ船舶積荷ノ所有者ハ損害ノ賠償ニ出捐スル義務ヲ有セス

前二項ノ規定ハ船員カ其過失ニ因リテ生スル損害ヲ賠償スル義務ヲ妨ケス

第七三五條 雙方ノ船舶ノ船員ニ過失ナキトキハ二船ノ一方又ハ雙方ニ加ヘ

タル損害ノ賠償ハ之ヲ請求スルヲ得ス

衝突カ雙方ノ過失ニ基クトキハ損害賠償ノ義務及其賠償額ハ事情殊ニ其衝突カ主トシテ何レノ船舶ノ船員ノ過失ニ基キシヤニ依ル

第七三六條 第七三四條及第七三五條ノ規定ハ二船共又ハ其中ノ一艘カ航行中若クハ漂流中ナルト又碇泊中ナルト陸ニ繋カレタルト中間ハ之ヲ適用ス

第七三七條 衝突ノ爲メ損害ヲ受ケタル船舶カ或港ニ達シ得ル前沈没シタルトキハ其沈没ハ衝突ノ結果ナリト推定ス

第七三八條 船舶カ強制水先人ノ指揮ノ下ニ在ル場合ニ於テ船員カ其職務ヲ盡シタルトキハ船舶所有者ハ水先人ノ責ニ歸スヘキ衝突ヨリ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第七三九條 本章ノ規定ハ二艘以上ノ船舶カ衝突シタル場合ニ之ヲ適用ス、前項ノ場合ニ於テ一船ノ船員ニ過失アリタルトキハ其船舶ノ所有者ハ他船トノ衝突ニ因リ更ニ其他船ト第三船トノ衝突ヲ來タシ爲ニ生シタル損害ヲモ賠償スル責ニ任セス

第六節 海上危険ニ對スル契約

V. Bar, II. S. 226.

第一 海上危險ニ對スル保險契約ハ國際生活上國際民法ノ原則ニ從フ但海上法ノ特質ニ因リ多少變更セラル

之ヲ根據トシ左ノ如ク云ハサルヘカラス

一、保險會社ノ事務所所在地法ニ依ル

二、場合ニ依リテハ特別ノ取引用語ヲ用ヒタルノ一事ヨリ外國法ニ服從スル旨ヲ約シタルモノト論結スルコトヲ得

第二 併シナカラ保險者ハ共同海損ノ計算ヲ承認セサルヘカラス殊ニ所謂共同海損技師ノ行爲ニ關シテ然リトス

之カ爲メ保險契約ノ準據法ニ關係ヲ有セサル法律ニ從ヒテ共同海損ヲ計算スルノ結果ヲ生スルコト稀ナラス

第三 アントウエルベン列國會議ハ統一的規則ヲ議決セリ

同會議ノ立テタル規則左ノ如シ

海上保險契約ニ關スル爭議ニシテ保險證券ノ豫見セサルモノハ當事者カ同證券ヲ作リタル地ノ法律條件及慣習ニ依リテ之ヲ決ス但共同海損ノ計

算ニ關シテハ保險者ハ被保險者ノ服從スル法律ヲ承認シタルモノト看做サル

第四 國際法協會ハ海上保險ニ關スル統一法ノ草案ヲ作レリ(Annuaire VIII. p. 125)

同草案ハ左ノ如シ

第一條 船舶又ハ積荷カ航海ノ危險ヲ凌クコトニ付キ金錢ニ見積リ得ヘキ利益ヲ有スル者ハ之ヲ以テ海上保險契約ノ目的ト爲スコトヲ得殊ニ商品及旅客ノ運送賃冒險貸借ニ於ケル海上利益商品ヨリ得ントスル利益及仲立ヨリ得ヘキ手数料ハ之ヲ保險ノ目的ト爲スコトヲ得但一國カ特別法ニ依リ船員ノ給料ヲ保險ニ付スルコトヲ禁シタルトキハ此限ニ在ラス

第二條 別段ノ定アルニ非サレハ保險ハ戰爭ノ危險ヲ包含セス然レトモ反對ノ定ナキトキハ船長及海員ノ職務懈怠及過失ノ場合ヲ包含ス但保險證券ニ明ニ反對ノ定アルニ非サレハ被保險者ノ用ヲ爲ス船長ノ職務懈怠ノ場合ヲ包含セス

第三條 別段ノ定アルニ非サレハ保險ハ第三者ノ行爲ヨリ生スル危險ヲ包含セヌ

第四條 當事者カ合意ノ上鑑定人ヲ選ヒ之ヲシテ被保險物ノ價格ヲ評價セシメタルトキハ保險者ハ詐欺ノ場合ノ外此評價ヲ爭フコトヲ得ヌ

第五條 被保險物ノ委付ハ破船シタルトキ捕獲セラレタルトキ官ノ命令ニ依リテ押收セラレタルトキ海上危險ニ因リテ航行スル能ハサルニ至リタルトキ被保險物ノ滅失又ハ毀損カ其價格ノ四分ノ三以上ニ達シタルトキ及獨逸商法第八六條譯者曰新商法八六二條ニ定メタル期間報知ナキトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得但各國ハ特別法ヲ以テ更ニ委付ノ場合ヲ制限スルコトヲ得

第六條 被保險物賣買ノ場合ニ於テ新所有者カ保險者ニ對スル前所有者ノ權利義務ニ代位シタルトキハ保險ハ新所有者ノ利益ノ爲ニ存續ス但保險證券ニ反對ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

附錄

瑞西居住居留民法(一八九一年六月二五日)

第一章 瑞西住民及居民ノ瑞西ニ於ケル私法關係

(甲) 總則

第一條 人事法親族法及相續法ニ關スル州ノ私法規定ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其州ニ住スル他州ノ住民及居民ニ之ヲ適用ス

第二條 本法カ明ニ本籍州ノ裁判管轄ヲ留保スルニ非サレハ住民及居民ハ第一條ニ掲ケタル私法關係ニ付キ住所地ノ裁判管轄ニ服從ス

裁判官ハ職權ヲ以テ他州ノ私法ヲ適用スヘシ但成文法及慣習法ノ證明ニ關スル州法ハ此限ニ在ラス

第三條 本法ノ意義ニ於ケル住所ハ繼續シテ滞在スル意思ヲ以テ住スル地ニ在

リトス

教育場看護院、庇護院、保養院又ハ懲治場ニ入ルモ之ニ因リテ本法ノ意義ニ於ケル住所ヲ設定セス、學校ニ於テ修學スル爲メ一地ニ滞在スルトキ亦同シ
一旦定メタル住所ハ新住所ヲ取得スルマテ存續ス

何人ト雖モ同時ニ二箇以上ノ地ニ住所ヲ有スルコトヲ得ス

第四條 妻ノ住所ハ夫ノ住所ニ在リトス

親權ノ下ニ在ル住所ハ親權者ノ住所ニ在リトス

被後見人ノ住所ハ後見官廳ノ所在地ニ在リトス

第五條 數州ニ本籍ヲ有スル者アルトキハ本法ノ適用上其者ノ本籍州ハ最後ノ住所ヲ有シタル本籍州トシ又其者カ本籍州ニ住所ヲ有セザリシトキハ其者又ハ其祖先カ最後ニ市民權ヲ取得シタル州トス

第六條 一州内ニ於テ同一ノ法律行ハレザルトキハ住民及居民ノ住所地法ハ其者ノ住スル地方ノ法律トシ又本籍地法ハ其者カ民籍ヲ有スル市町村ノ法律トス
右州内ニ於テ數多ノ本籍ヲ有スル者アルトキハ第五條ノ規定ヲ準用ス

(乙) 人事法及親族法關係

一、行爲能力

第七條 妻ノ行爲能力ハ婚姻中住所地法ニ依リテ之ヲ定ム
親權者又ハ後見者ニ對スル未成年者ノ權利ハ親權又ハ後見ニ適用スヘキ法律ニ依リテ之ヲ定ム

成年宣告ハ親權又ハ後見ニ適用スヘキ法律及裁判管轄ニ服従ス

遺言能力ハ遺言ノ當時ニ於ケル住所地法ニ依ル

二、身分

第八條 人ノ身分殊ニ嫡出子及私生子ノ問題、私生子ノ認知又ハ確認宣告ノ效力ノ問題及養子ノ問題ハ本籍地法ニ依リテ之ヲ決シ且本籍地ノ裁判管轄ニ服従ス

前項ノ場合ニ於ケル本籍地ハ夫、父、養親ノ本籍州トス

三、親權

第九條 親權ハ住所地法ニ依ル

親族間ノ扶養義務ハ扶養義務者ノ本籍地法ニ依ル

四、後見

第一〇條 後見ニ付テハ第一二條及第一五條ノ場合ノ外後見ニ付セラルヘキ者又ハ後見ニ付セラレタル者ノ住所地法ヲ適用ス

第一一條 本法ニ於テ後見法トハ被後見人ノ監護ニ關スル規定並ニ財産ノ管理ニ關スル規定ヲ謂フ

第一二條 住所地ノ後見官廳ハ本籍州ノ後見官廳ニ後見ノ開始及終了並ニ被後見人ノ住所變更ヲ通知シ且請求ニ因リ後見ニ關スル一切ノ問題ニ對シ説明ヲ與フヘシ

第一三條 後見ニ付セラレタル未成年者ノ宗教々育ニ關シ聯邦憲法第四九條第三項ノ規定ニ從ヒ處分ヲ爲スヘキトキハ住所地ノ後見官廳ハ此點ニ關シ本籍後見官廳ノ指圖ヲ求メ之ニ從フヘシ

第一四條 本籍州ノ節轄官廳ハ州外ニ住所ヲ有スル市民ヲ後見ニ付スヘキコトヲ住所州ノ管轄官廳ニ請求スルコトヲ得此請求ヲ受ケタル官廳ハ住所地ノ法

律ニ依リテ後見開始ノ理由アリト見ユヘキトキハ其請求ニ從フコトヲ要ス

第一五條 住所地ノ官廳カ被後見人ノ身體上又ハ財産上ノ利益又ハ本籍市町村ノ利益ヲ危殆ナラシメ若クハ適當ニ之ヲ保全スルコト能ハサルトキ又ハ子ノ宗教々育ニ關スル本籍官廳ノ指圖ニ從ハサルトキハ本籍官廳ハ後見ヲ自己ニ引渡スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第一六條 第一四條及第一五條ニ定メタル本籍官廳ノ請求ニ關スル爭訟ハ同官廳ノ訴ニ因リ聯邦裁判所ハ公法裁判所トシテ終審ニ於テ之ヲ決ス急迫ノ場合ニ於テハ聯邦裁判所長ハ危險ニ瀕セル利益ヲ保護スル爲メ臨時處分ヲ爲ス

第一七條 後見官廳カ被後見人ニ住所ノ變更ヲ認可シタルトキハ後見執行ノ權利義務ハ新住所地ノ官廳ニ移轉ス被後見人ノ財産ハ之ヲ同官廳ニ交付スヘシ

第一八條 後見ハ同時ニ住所州及本籍州ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

五、夫婦財産法

第一九條 第二〇條ノ場合ノ外婚姻中夫婦間ノ財産法關係ハ夫婦カ後日其住所ヲ本籍州ニ移シタルトキト雖モ第一婚姻住所地法ニ支配セラル疑アルトキハ

結婚ノ當時ニ於ケル夫ノ住所ヲ以テ第一婚姻住所地ト看做ス

第三者ニ對スル夫婦財產法關係ハ其當時ノ婚姻住所地法ニ依ル殊ニ夫カ破産シ又ハ夫ニ對シテ差押アルタル場合ニ於テ夫ノ債權者ニ對スル妻ノ法律上ノ地位モ亦此法律ニ依リテ定ム

第二〇條 夫婦カ其住所ヲ變更シタルトキハ新住所地ノ管轄官廳ノ許可ヲ得テ管轄官廳第三六條口號ニ共同宣言書ヲ提出シ其相互間ノ法律關係ヲモ新住所地法ニ服從セシムルコトヲ得

前項ノ宣言ハ夫婦財產法關係ノ始リタル時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第二一條 婚姻住所地ニ於テ特別ノ法律行為ニ依リテ第三者ノ取得シタル權利ハ夫婦ノ住所變更ニ因リテ影響ヲ受ケス

(丙) 相續法

第二二條 相續ハ被相續人ノ最後ノ住所地法ニ依ル

但被相續人ハ臨終處分又ハ相續契約ニ依リ遺產ヲ其本籍州法ニ服從セシムルコトヲ得

第二三條 相續ハ全財産ニ付キ被相續人ノ最後ノ住所ニ於テ開始ス

第二四條 臨終處分相續契約及死後贈與カ行為地法行為ノ當時若クハ被相續人死亡ノ當時ニ於ケル住所州法又ハ被相續人ノ本籍州法ニ適合スルトキハ其方式ニ關シテハ有效ナリ

第二五條 相續契約ノ内容ハ婚姻豫約者間ニ在リテハ第一婚姻住所地法其他ノ場合ニ在リテハ契約締結ノ當時ニ於ケル被相續人ノ住所地法ニ依リテ之ヲ定ム但遺留分權ニ關シ相續ニ適用スヘキ法律(第二二條)ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二六條 配偶者ノ一方ノ死亡ニ因リテ發生シ且親族法ト關聯スル相續法上ノ關係ハ相續ニ適用スヘキ法律(第二二條)ニ依リテ之ヲ定ム此關係ハ生存配偶者ノ住所變更ニ依リテ變更セス

第二七條 生前贈與及死後贈與ハ遺留分權ニ關シテハ贈與者ノ遺產ノ相續ニ適用スヘキ法律(第二二條)ニ依リテ之ヲ定ム

第二章 外國ニ於ケル瑞西人ノ私法關係

第二八條 條約ニ別段ノ定ナキトキハ外國ニ住所ヲ有スル瑞西人ノ人事法、親族法及相續法上ノ關係ハ次ノ規則ニ依ル

一、此種ノ瑞西人カ外國法ノ規定ニ依リ外國法ニ服從スルトキト雖モ外國法ノ適用ハ瑞西ニ於テ其者ノ有スル不動産ニ及ハス、此種ノ不動産ニ付テハ本籍州ノ法律及裁判管轄行ハル

二、此種ノ瑞西人カ外國法ニ從ヒ外國法ニ服從セザルトキハ本籍州ノ法律及裁判管轄ニ服從ス

第二九條 瑞西人タル被後見人カ瑞西ヲ去リタルトキハ後見ハ其事由ノ存續スル間從來ノ後見官應依然之ヲ爲ス

第一五條ニ於テ本籍後見官應ニ與ヘタル權利亦同シク存續ス

第三〇條 移住者又ハ本國ニ在ラサル者ニ後見ヲ付スヘキトキハ本籍州ノ官應之ヲ管轄ス

第三一條 瑞西ノ夫婦カ外國ニ第一婚姻住所ヲ有スルトキハ其財產法上ノ關係ハ本籍州法ニ依リテ之ヲ定ム但此關係ニ付キ外國法ヲ適用スヘキトキハ此限

ニ在ラス

瑞西ノ夫婦間ニ瑞西ニ於テ設定セラレタル財產法關係ハ婚姻住所ヲ外國ニ移シタルカ爲メ變更セス但此關係ノ存續カ外國法ニ抵觸スルトキハ此限ニ在ラス

瑞西ノ夫婦カ外國ヨリ瑞西ニ歸リタルトキハ其相互間ニ在リテハ外國ニ於テ成立シタル法律關係繼續ス但夫婦ハ第二〇條ニ依リテ與ヘラレタル權利ヲ行使スルコトヲ得第三者ニ對スル關係ニ在リテハ第一九條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三章 瑞西ニ於ケル外國人ノ私法關係

第三二條 本法ノ規定ハ瑞西ニ住所ヲ有スル外國人ニ之ヲ準用ス

第三三條 瑞西ニ於テ外國人ニ付シタル後見ハ本國管轄官應ノ請求ニ因リ同官應ニ之ヲ引渡スヘシ但其外國カ相互權ヲ與フルトキニ限ル

第三四條 條約ノ特別ノ規定並ニ一八八一年六月二二日行爲能力法第一〇條第

二項及第三項ノ規定ハ之ヲ留保ス

第四章 經過終局規定

第三五條 聯邦會議ハ後見管理カ本法ノ規定ニ從ヒ相當ノ期間内ニ住所州ニ引渡サルルニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第三六條 州ハ左ノ官廳ヲ指定ス

イ、州カ第一六條ニ掲ケタル後見事件ノ争訟ノ裁判ヲ初審且終審トシテ聯邦裁判所ノ管轄ニ屬セシメサル場合ニ於テ之ヲ管轄スル州官廳
ロ、第二〇條ニ定メタル宣言ヲ許可スル權限ヲ有スル官廳並ニ同宣言ヲ受理スヘキ官廳

第三七條 第二〇條ニ於テ與ヘタル權利ハ本法施行前既ニ婚姻シタル者モ亦之ヲ有ス

第三八條 聯邦裁判所ハ公法上ノ裁判手續ニ從ヒ本法ヲ適用スヘキ争訟ヲ裁判ス

第三九條 聯邦又ハ州ノ法律ニシテ本法ニ抵觸スル規定ハ本法施行ノ時ト共ニ之ヲ廢ス、左ノ條約モ亦同時期ニ其效力ヲ失フ

一、後見及保佐ニ關スル一八二二年七月一五日ノ條約

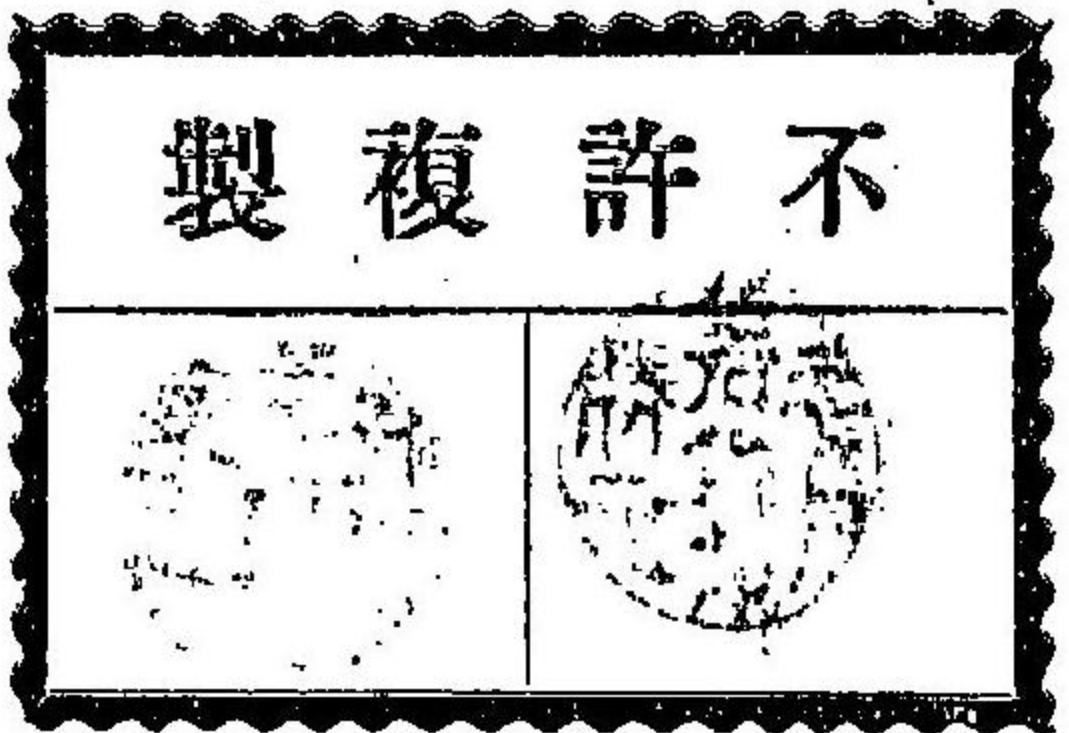
二、遺言能力及相續法關係ニ關スル一八二二年七月一五日ノ條約

第四〇條 聯邦會議ハ一八七四年六月一七日ノ聯邦法及聯邦決議ニ關スル國民投票法ノ規定ニ基キ本法ヲ公布シ且本法施行ノ期ヲ定ムヘシ

明治三十八年十一月八日印刷
明治三十八年十一月十二日發行

國民商法論下卷

定價金貳圓



纂譯者

跡部定次郎

纂譯者

毛戶勝元

發行者

吉岡平助

發行者

大葉久吉

印刷者

青木弘

印刷所

秀英舍第一工場

東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十二番地

東京市牛込區市ヶ谷加賀町二丁目十七番地

發行所

東京市日本橋區本石町三丁目
大阪市東區備後町四丁目

寶文館

寶文館發行法律經濟書

◎法學通論
 京都帝國大學法科大學教授法學博士 織田萬著
 全洋一冊裝
 定價金一圓五十錢
 郵税金十錢

◎改商法要義
 在大學院法學士 丸山長渡著
 全上一冊裝
 定價金二圓五十錢
 郵税金三十錢

◎民法實習類題
 京都帝國大學法科大學教授法學士 毛戶勝元 共著
 跡部定次郎 共著
 全洋一冊裝
 定價金六十錢
 郵税金六十錢

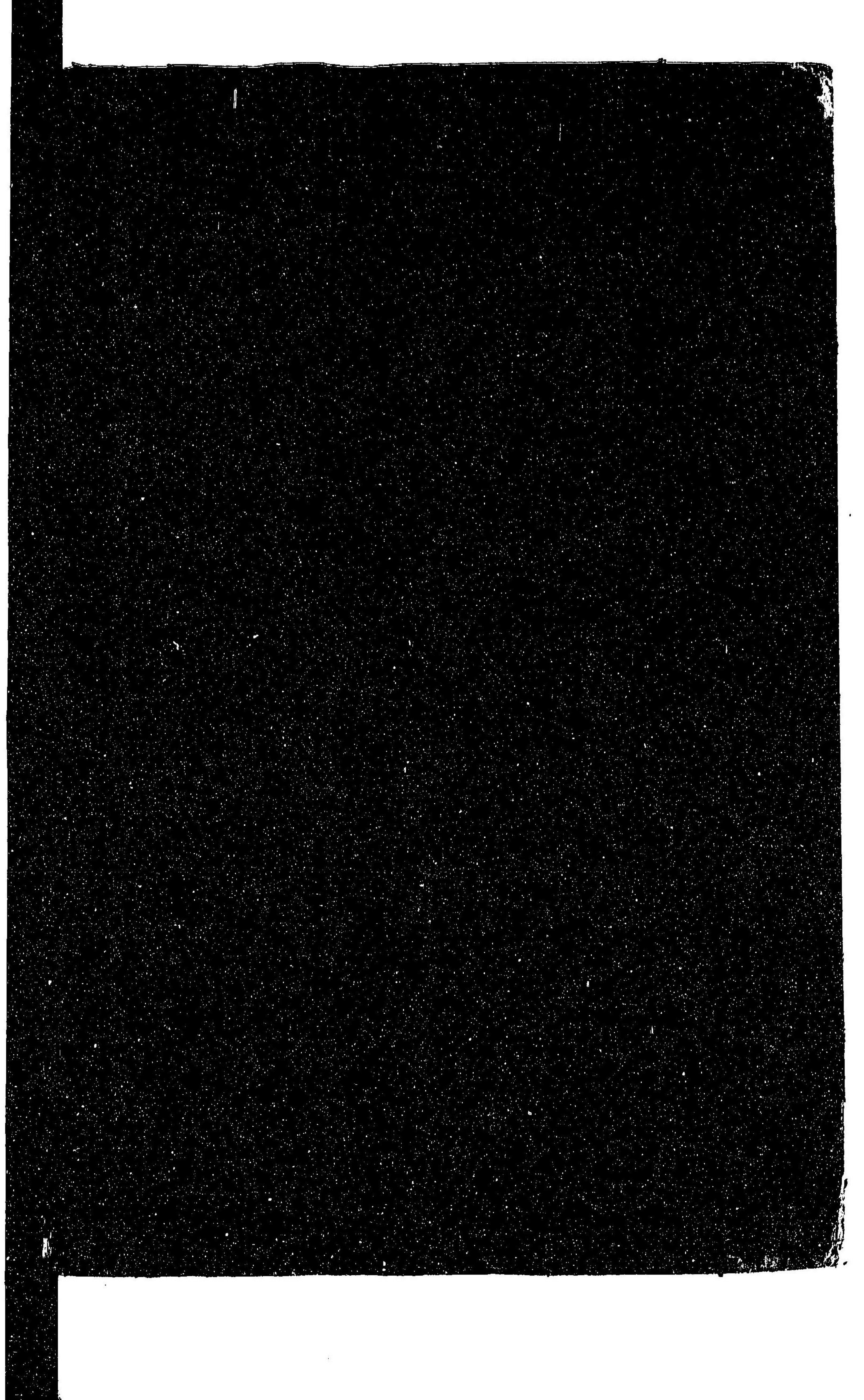
◎最新經濟論
 歐洲留學經濟學專攻 夏秋龜一著
 全上一冊裝
 定價金一圓五十錢
 郵税金十錢

◎經濟原論
 東京帝國大學法科大學教授法學博士 松崎藏之助 共譯
 東京帝國大學法科大學講師 岡本芳次郎 共譯
 全上一冊裝
 近刊

◎行政法原理
 京都帝國大學法科大學講師法學士 市村光惠著
 全上一冊裝
 近刊

◎地方行政
 京都帝國大學法科大學教授法學博士 織田萬 共著
 京都帝國大學法科大學講師法學士 佐々木抱一 共著
 全上一冊裝
 近刊

90
198



90
198

